



横田 勝利 議員

問 五霞インターチェンジ開通に伴う土地利用は

答 線引きならば協議の対象に

問 五霞インターチェンジ周辺の土地利用について、町長は、橋本知事とともに郡司副大臣へ要請したところ、いわゆる市街化区域への線引きでの協議対応が可能だとの回答を得たとのことだが、それは、農林水産省の公式な回答なのか。

副町長 当初は、市街化調整区域のまま地区計画で協議を進めるという方針であったが、昨年11月に当該区域が優良農地の甲種農地であるので、35haに及ぶ集団的な農地を転用することは事例もなく、難しいという農林水産省の見解が示された。そこで、昨年12月に町長が知事とともに郡司副大臣へ要請したところ、農林水産省から

①農地転用許可手続きではなく、**線引き**による土地利用の方針であるならば協議に応じる
 ②協議の対象は、35ha区域とする
 ③農林事業で受けた補助金の返還もあり得る
 と3点の回答を得た。特に①の線引きについて、

町では農林水産省の公式な見解と認識している。また、今年3月に県の土木部及び農林担当部局が国土交通省及び農林水産省との協議の中で、線引きによる対応は農林水産省の公式な見解であることと確認しており、既に調整段階に入っている。ただし、あくまで、農林水産省は線引きによる方法ならば協議の対象にするということであり、今後、具体的な提案をしながら判断されていくことになるので、現時点で間違いないという理解は早すぎる。

問 平成7年頃より商業者が五霞インターチェンジ周辺への進出を考えているとのことだったが、五霞町は商業施設を誘致できるのか、商業者の事業計画はそうなっているのか、その点は確認できているのか。

町長 本年2月下旬に商業者側から、インターチェンジの開通時期が明確化していない状況で、いつの時点で進出するかし

ないかの判断は難しいとの見解が示された。五霞町としては、再度、企業側の明確な意思を確認したいと考えている。

問 町長として、五霞インターチェンジ周辺開発に伴う企業誘致について、どの程度の覚悟をもって臨んでいるのか、その決意を伺う。

町長 インターチェンジ周辺開発は、町の振興発展に必要な不可欠な事業であると認識している。今後の線引き協議を提案していくにあたり、その前提として、商業・工業・流通と幅広い業種を対象とした企業への誘致調整を図っていきたい。そのため、町の推進体制として効率的かつ的確に対応できるような人員配置と併せ、専門知識を有するコンサルタントへの業務委託も検討していく。

問 インターチェンジ周辺への企業誘致をより一層推進するため、私ども議員団で陳情などの働きかけを行っていききたいが、

町でもバックアップすることは如何に。

町長 町政運営を行っていくにあたって、執行部と議会は車の両輪のごとく機能していかなければならない。今後は、町と県、さらには国との調整段階に入っていくことになるので、議会の協力もいただきたいながら進めていきたい。

※線引き・・・無秩序な市街化を防止し計画的な市街化を図るため、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分すること。



工事が進む五霞 | C (江川地区)

